

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100307		
法人名	医療法人 智仁会		
事業所名	グループホーム吉原		
所在地	〒840-0013 佐賀市北川副大字新郷654-1		
自己評価作成日	令和6年12月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和7年1月21日	外部評価確定日	令和7年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは高齢者住宅や通所リハビリ、訪問看護、訪問リハビリと併設の事業所です。法人の医療機関が隣接しており、毎週水曜日に訪問診療があり、安心して生活していただける環境となっています。施設の周りは、散歩ができるように整備されており天気の良い日は散歩を行っています。フロアの南側には大きな窓があり、面した所に季節に応じた野菜や花などを作っています。毎日成長を楽しみにされています。隣接した敷地に保育園もあり、普段から園児たちと触れ合う機会があり喜ばれています。入居者は高齢の方が多く、体力維持と認知症の進行予防の為、体操やレクリエーションを毎日取り入れています。近年の新型コロナウイルスの影響で、地域行事への参加が以前のようには出来にくくなっています。そのため、人数や時間を考え行事を行っています。また、日々の生活を楽しんでいただけるよう、グループホームの夏祭り、誕生会、美容レクリエーションなどのイベントを行っています。高齢者住宅の方や通所リハビリ利用者の方と合同で敬老会やクリスマス会を行い喜ばれています。今後も入居者の方へ寄り添い、理念であるその人らしい支援の継続に努めていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

目の前に併設の病院があり、グループホームがある建物は「夢館」と言う。夢館にはグループホームだけでなく、サービス付き高齢者向け住宅や、通所リハビリテーションなどの事業所も入っている。グループホームは1階にあるが、たくさんの事業所があるため、イベントや行事などの開催も多く、多くの利用者に関われるような環境で過ごすことができている。
管理者は、利用者の思いや生活を大事にされており、話がしたいのか一人になりたいのかなど言動をしっかり見て、利用者が過ごしやすい環境を定期的に変え整えている。職員にもその思いを伝えており、会話の時間をゆっくりとすることで、利用者の希望や意見を聞くように伝えている。実際にリビングでは、利用者、職員がソファに座り、ゆっくりと談笑する姿も見られた。また、楽しい生活ができるようレクリエーションや誕生会などを毎月行っている。外部の専門職に依頼し、美容レクリエーションを行ったり、食べたい物を提供できるようおやつレクリエーションを行ったりし、閉鎖的にならないよう、他の職員や外部、夢館内の利用者とのコミュニケーションを取るよう心がけている。利用者だけでなく、職員に対しても、楽しく、働きやすく、意見が言えるような環境を作られている管理者の思いを感じる事ができた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく、人格を尊重した生活環境が構築できるように、ホール内に理念を掲げている。「いくつになっても夢ある暮らしを」を念頭に入れ、そのままを受け入れる入居者様の声を傾聴・共感するよう努めている。	理念は開設当初から変わらない。パソコンの目の前にいつでも理念が見られるよう掲示されている。朝のミーティング時、引継ぎ時に唱和をしており、名札にも理念を入れて確認ができるようにしている。 「いくつになっても夢のある暮らしを」という通り、コロナも落ち着いてきたため、今後は利用者の思いを叶えたいと思っている。職員は、利用者の話を傾聴し、思いを聞くように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩し地域の方々と接する機会を設けている。新型コロナウイルスの影響で地域の行事に参加ができない状態だったが緩和されている。今後は状況に合わせて地域の行事に参加していきたいと考えている。	地域の情報はお便りでも分かるが、自治会長さんより声がかかり把握できる。少しずつ地域の行事も緩和され、しめ縄作りなどにも参加されるようになった。今後も地域の行事には参加していく予定である。また、月に1回、事業所内でロビーコンサートを開催しているため、利用者は参加することで、他事業所や地域の方とも交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、事業所の状況などを報告。中学校や高校からのボランティアや職場体験をできるだけ受け入れている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中での自治会長さんや民生委員さん女性の会委員さんより地区で行われる行事や地域のお知らせなどから、事業所で参加できるような行事を選んでいる。行きやすい場所なども提案してもらっている。	毎回決まった曜日に開催しており、集合して会議を行っている。欠席される方はほとんどおらず、ほぼ参加されている。主に事業や事故報告などを行っているが、運営についての意見はほとんど出ず、たまに頂く程度である。民生委員さんからは、地域の高齢者の方について、情報をもらうことがある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困った時には、佐賀中部広域連合に連絡するようにしている。運営推進会議で地域包括支援センターの方に参加してもらい意見をもらっている。	運営推進会議のメンバーであるため、顔見知りであり関係は良好である。運営指導にも入られる為、助言などを頂いている。普段から、聞きたい事があればやり取りは行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月事業所の会議で勉強会を実施している。職員の意識を高めるため、職員との意見交換を行っている。身体拘束を行っている方はおられません。玄関の施錠はできるだけ行わず、夜間のみ施錠している。	身体拘束はしないという方向で会議や勉強会も行っている。職員への意識付けもできており、会議の中ではセンサーマットが必要かどうかの話し合いを行ったり、職員数に応じて玄関の電子錠を開ける取り組みを行っている。また、これらの記録は議事録に残している。病院との合同の委員会では、拘束者の有無を報告している。外部研修への参加もされており、復命をし職員に周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会での情報共有や勉強会を開催し防止に努めている。事業所内でのマニュアルを作成している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自己学習や研修参加をし、職員間で情報を共有し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ゆっくりと時間を取り不安や疑問に答えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方に対しては、話しやすい雰囲気づくりに努めている。ご家族へは来所時に必ず声をかけ、気になることや困ったことがないか尋ねるようにしている。	グループホームの入口に意見箱を設けており、夢館の入口にもあるが、ほとんど意見が入ることはない。面会自体は多いため、ご家族には気になることを伝え、しっかりと話し合いは行えている。その中で、個人的な要望を言われることはあるが、運営に関する意見を言われることはほとんどない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議を毎月行い職員の意見を聞けるようにしている。会議以外でも職員の提案などを聞き改善を行っている。	毎月会議を行っているため、運営に関する意見や業務改善につながる意見を聞く機会はある。管理者は、職員の負担になっていないか、どんな所に負担があるかを聞くだけでなく、実際に現場に入り、職員とコミュニケーションを図ることを大切にしている。普段からも声をかけを頻繁に行い、利用者だけでなく、職員の考えも取り入れて、業務改善を行っている。管理者も必要な要望は上司に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い、意見などを聞いている。人事考課制度があり条件の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所で毎月1回勉強会を行い、専門的な知識の習得や意欲の向上を図れるように努めている。また、院外の研修等にも出来るだけ参加できる体制を取っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	院外の研修で関わった同業者との交流を大切にし、習得した情報を共有し可能なことは事業所内での取り組みに活かすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に聞き取りを行い、出来るだけ安心して暮らしていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の前に本人や御家族に話を聞き、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談などを通して本人やご家族が何を必要とされているか把握するようにしている。関連する支援につなげるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過ごしやすい雰囲気努め、入居者様ができることを見守り手伝いながら、毎日を穏やかに暮らしていただけるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、入居者の方についてわかりやすく情報を提供し、連絡できる体制を整えている。面会に来られた時にロビーコンサート等と一緒に楽しんで頂いたりと本人と関わる機会を多く持つてもらえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にされてきた人との関係を大事にし、続いて行くように努めている。	馴染みの人が面会に来られる。利用者が会いたいと言われた時は、その知り合いの方や家族にも許可を取り、面会に来て頂けるよう促している。年賀状のやり取りもある。家に帰りたいと希望されれば、自宅へ見学に行ったり、庭の花を見に行く事もある。 家族からSNSでのやり取りの要望もあるため、今後はSNSなども活用していきたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみ、新聞折り等のお手伝いをして頂くなかで関わりを持ち、本人の様子を見ながら居心地の良い環境を提供できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、気軽に声をかけて頂くように伝えている。同施設内のサービスや病院を利用されている時は、面会に行くよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人との会話から希望や意向を聞き取り、困難な場合は、ご家族に話を聞くようにしている。	理念にあった「夢を叶えたい」で、利用者の要望を聞き、可能な限り要望を叶えている。管理者は職員に、通常の勤務で利用者の隣に座って話をすることも大事な仕事の一環と位置づけており、その時に要望などもしっかり聞き取るよう促している。意向の把握が難しい利用者は、家族と話し合いながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前利用されていたサービス事業所から情報を提供してもらい、医療機関からの添書、本人、ご家族からの情報により、経過を把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活時間を把握し、書写をしたり、計算プリント、パズルをしたりと思いの思いの時間を過ごせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の希望を踏まえ、主治医や、医療機関の看護師、リハビリスタッフ等に現状を聴き取りし、現状に応じた計画を作成している。	モニタリングは月に1回、職員から日々の情報を収集して行っている。必要があれば、同敷地内・同建物内の専門職からの助言ももらっている。サービス担当者会議は、家族に合わせて行っているため、直接家族と介護計画について話ができています。 介護計画は、利用者の要望や状態に即した内容で作られており、画一的でなく、一人ひとりの課題やニーズが明確になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成し、計画作成担当者や管理者、担当職員と話し合い計画に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の意向を踏まえ、必要なサービスが提供できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などを通して、地域と交流を持ち楽しみを感じて頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医を確認し、ご希望があれば当医療機関へかかりつけの移行ができることを説明している。週に1回の訪問診療により、定期的な健康管理と、必要時の報告、相談等の連絡体制を取っている。	目の前に病院があり、週1回往診に来られる。内科や皮膚科などがあるが、専門外は家族で受診の対応をしている。かかりつけ医は決まっておらず、希望をすれば協力医以外でも良いが、同系列の病院があるので、ほとんどの利用者・家族が希望される。夜間などの緊急時は、病院の宿直の医師に連絡し、医師の指示や判断でオンコールの看護師に連絡が行き、必要な対応を行うようになっている。救急搬送時は救急対応が可能な病院へ搬送となるが、協力病院が目の前にあり、普段はすぐ対応も可能という事では、医療的な安心感は強い。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の情報を看護師へ報告し、早期受診につながるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関に情報提供を行い、医療機関より情報提供を行ってもらい状態の把握を行っている。ご家族へも情報提供を確実にし、受診時にはできる限り立ち会いをして頂くように促している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方を、入居時に説明を行い、医療機関を交え、今後の方針や支援の在り方を状況に応じ検討している。	利用者の状態に応じて、早めに家族へ伝え、医師を交え終末期をどこで迎えるか希望を聞くようにしている。看取り体制は整っており、希望されればグループホームでの看取りはできる。これまで行った事もある。しかし、家族の希望で併設の病院へ行かれる方も多い。職員には看取りの研修や勉強会を行っている。見取り時は、ご家族への連絡など対応方法を教えている。必要時は家族が泊まりもできるよになっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は、緊急時のマニュアルに沿って対応している。緊急連絡網などを活用し医師や看護師への迅速な連絡や指示を受けられる体制作りを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害などを想定し、防災訓練を年2回実施している(法人と一緒に)。12月17日に当事業所からの火災を想定した防災訓練を実施した。 また、定期的に防災マニュアルの見直しを行っている。	グループホーム単体で災害訓練を年に2回、同敷地内で火災訓練を年2回行っている。地域の方にも参加を促してみたが、地域の方は高齢化されており参加が難しく、消防団に協力してもらうよう伝えている。 職員以外でも協力時には歩行可か車椅子かが分かるように、居室の名前札の色を変えている。BCP(事業継続計画)もしっかり作成されている。備蓄品も病院と一緒に管理され、かなり多くの食料なども備蓄されていた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、その方にあった声のかけ方や言葉遣いに注意し、誇りを損ねない対応を心掛けている。	管理者はスピーチロックなども含めて、利用者の尊厳を損なわないような声かけを職員へ伝えている。職員には接遇チェックシートを用い意識付けを行っており、成果も出ていると感じている。管理者は、利用者のプライバシーの確保として、トイレにカーテンを付けて欲しいと要望を出している。開けても見えないような配慮をしたいと思っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方の思いに耳を傾け、伝えやすい雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し可能な限り希望やその時の状況に合った対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段していた洗顔や洗髪、化粧などを継続できるようにお手伝いしている。定期的に美容レクリエーションやヘアカットを行い、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き等のお手伝いをしてもらったり、職員と一緒にメニューの紹介を行っている。	食事を楽しむために、メニューはすぐ見られるようにしており、読み上げも行っている。病院とは別に夢館独自の厨房があり、そこで作られている。ご飯は職員が炊いている。利用者からは美味しいと評判である。月に1回は誕生会のケーキを作ったり、プリンやおはぎを作ったりし、要望によっては購入して提供する事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の観察、水分量の把握を行い、必要に応じ栄養士に相談し、個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいを行い口腔内の清潔に努めている。必要時歯科往診を依頼し、口腔機能の安定に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間毎の排泄チェックを行い、排泄パターンの把握に努めている。トイレでの排泄という意識を持ち支援を行っている。	毎月の会議で排泄のアセスメントを行い、オムツ使用の検討を行っている。ポータブルトイレはあるが、現在は使用していない。「昼夜問わず、できるだけトイレへ行ける支援を行う」ことを考え、声をかけて誘導している。できるだけおむつやパット使用を減らす支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で確認し、体操や散歩などで体を動かす機会や温浴法を行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は週3回の入浴を実施している。要望があれば個別に柔軟な対応をしている。	日曜日以外は毎日沸かしており、週に3回入浴の支援を行っている。利用者の状態に合わせて、曜日はずらして対応できる。入浴剤も使用しており、良い香りがしていた。ゆず湯なども季節によって行っている。 シャンプーなども希望に応じて個人で持ち込みをされている利用者もいる。浴室は広く職員もゆっくり介助ができるようになっている。リフターもついており、身体機能に応じて安全に入られるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の今までの生活習慣に合わせ、休んでもらっている。日中でもご本人の思いで休んでも頂いている。寝具など使い慣れた物を自宅から持って来られることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の方の内服状況を職員が周知できるようにし、情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方の以前の生活習慣を考慮し、洗濯物を干したりテーブル拭きなど出来る事や意欲を引き出せるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの外出は個別に対応している。地域のイベントに参加する時は法人スタッフにも手伝ってもらい、外出の支援を行っている。	夢館の周りに遊歩道があり、天気の良い日は散歩に行くなど、利用者の日課となっている。利用者の要望を聞き、買い物支援も行っている。地域のイベントへの外出だけでなく、少し遠方へのドライブなども実施し、バルーンフェスタや佐賀城下ひな祭りなどに行っていた。今後も要望を聞き支援していきたいと考えているが家族に外出支援の取り組みがあまり伝わっていないようなので、家族への連絡を密にしたり、家族を巻き込んだ外出支援を行っていききたい。	家族に外出支援の取り組みがあまり伝わっていないようなので、家族への連絡を密にしたり、家族を巻き込んだ外出支援を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し同意を得て手持ちで管理されることもある。また、買い物の際は、職員と一緒に対応し出来るだけ自身で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望に応じて自由に使用出来るように努めている。贈り物が届いた時は、電話を入れ直接話してもらっている。年賀状の作成もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や臭気に十分注意し調節を行っている。入居者の方が落ち着いてゆっくり過ごして頂けるように努めている。家具の配置などは、その都度検討し環境を整えている。	ゆっくり過ごしたい利用者やお話をしたい利用者などその状況に合わせて、テーブルやソファの配置など環境を変えるようにしており、利用者の状況をしっかり把握されている。リビングは窓も大きく、日差しも明るい。食堂とリビングとしっかり分かれた配置になっており、ソファの数も多く、利用者はゆっくりテレビを見たり、職員と話をしたりできる環境になっていた。毎日業者の清掃が入っていることもあり、清潔感あるリビングであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のフロアではソファに集まり談笑をしたり一人掛けのソファでは個々に好きな場所で過ごしたりと寛ぐことが出来る。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、使い慣れたや馴染の物を持ってきて頂き、落ち着ける場所になるよう心掛けています。	居室は窓も大きく、広々としている。タンスやクローゼット、ベッドは備え付けで、洗面所も付いている。居室には写真やテレビ、机など持ち込みもされており、利用者が寛げる居室となっている。 掃除は職員と一緒にやる事もあり、どのお部屋もきれいにされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方の持てる力を最大限引き出せるよう、安全な歩行が出来るよう手すりを設置し、車椅子での自走も出来るよう環境作りに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない